



神戸市会議員



岡田ゆうじ

自由民主党神戸市会議員団市政報告

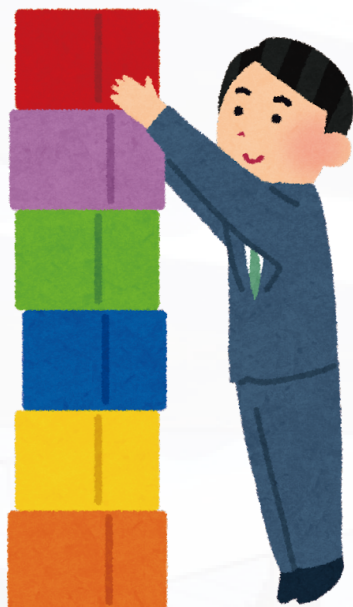
2023. 8

No.48

# 市民病院の拡充

コロナ禍で改めてその重要性が認識された中央市民病院。2020年には全国初として、コロナ感染症患者を専門に受け入れる臨時病棟を設置し、重症患者含めて対応に当たってきました。しかし医療従事者、特に看護師の人材不足が顕著となり、緊急事態宣言下の第4波の際には、厚生労働省を通じて国立病院機構を中心に、全国から多くの看護師を派遣いただきました。

さらに第6波の感染拡大のピーク時においては、看護師の身体的・精神的疲弊が顕著となり、これまで通りの重症患者の受け入れが困難となったことがあったため、市内の他病院から看護師を派遣していただいたものの、やむなく自宅療養を行わなければならない患者も発生しました。



具体的な目標設定と  
着実な改善こそ重要

こうした経験を踏まえ、医療体制の拡充、平時からの備えを万全とするために、明確な数値目標、基準が必要ですが、これまで市民病院機構の「中期目標」においては、具体的な数値を設定することなく、「病院間の連携強化」「働き方の改善」など抽象的な目標にとどまってきました。

コロナ禍を経た今となっては、こうした漠然とした目標設定では、いざという時市民の命を守れません。私から議会で申し入れ、2009年の中期目標制度誕生以来初めて、具体的な数値目標が中期目標として盛り込まれることになりました。引き続き市民の命と安全、健康を守るため、手を尽くして参ります。

## 市民病院機構中期目標の具体的数値化について



岡田ゆうじ

○委員 (岡田ゆうじ) 市民病院機構「中期目標」について、「目標」と書いてある割には、その目標「値」が1個もない。

わざわざこうやって第3期、第4期とくくって議会に報告しているわけだから、「この5年間でこれだけ達成します」という具体的な「目標」を掲げてもらわなあかん。

例えば、7ページの今回新たに追加された「新感染症等への対応」に関する目標は何と書いてあるかといえば、「各病院がそれぞれの役割に応じて本市等と連携しながら率先して取り組む」と書いてある。これが今後5年間の「目標」と言えるだろうか。例えば新興感染症だったら、何人分の患者のベッドを何日までに、市民の何%に当たる何人分を用意するとか。

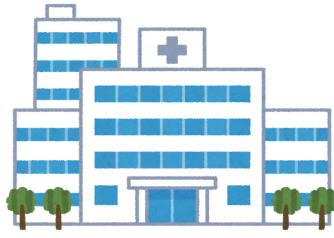
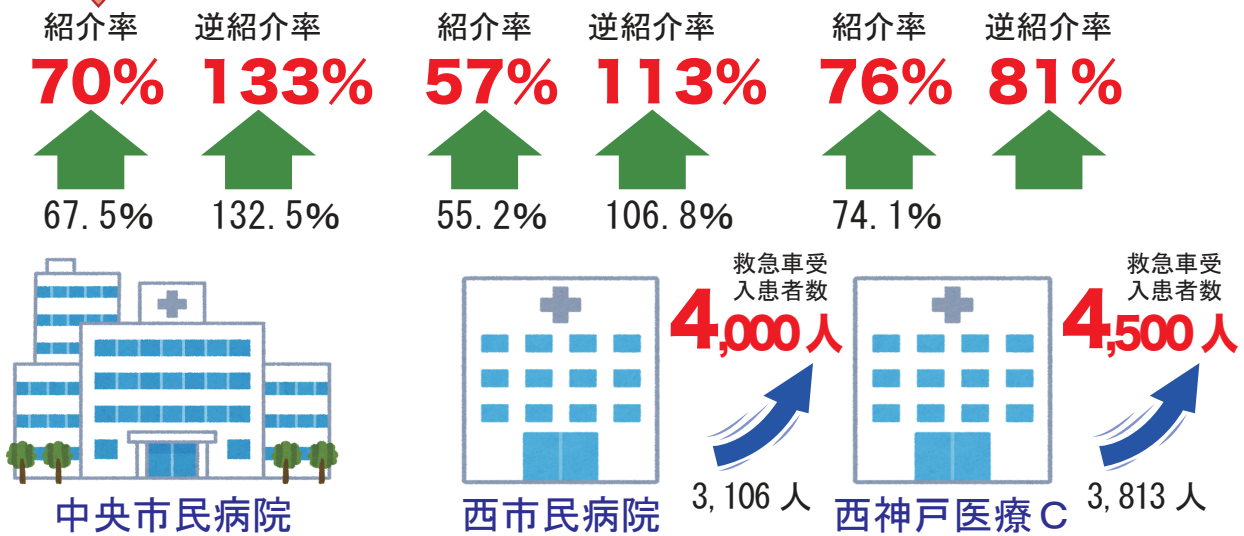
新設された「医師等の働き方改革の推進」のところを見ても、「ICTの活用やタスクシフト、タスクシェアの推進等により、医師をはじめとした全職員の働き方改革を推進する」と書いてある。これは当たり前のこと、今の御時世で当然の方針が書いてあるだけだ。

だけど、今後5年間の目標として、少なくとも何割、何人分だけは達成します、というのがないと、これではただ至極当然のことを方針として掲げているだけなので、「目標」という冠に値しない。市民病院機構のほうで達成すべき明確な目標、目標値、ターゲット、そういうものをもっと明らかにしてほしい。検討をしていただきたい。

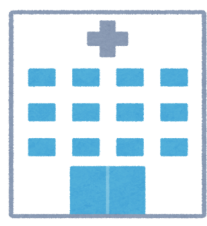


**実現**

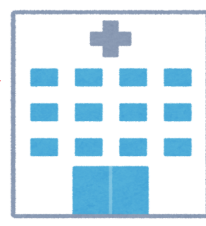
### 中期目標の具体的数値化 (制度誕生以来初)



中央市民病院



西市民病院



西神戸医療C

